
日本数理科学協会会報

35 / 2004 . 8

編集委員 藤井正俊 (委員長)/ 藤井淳一

目次

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| * JAMS のかかえる問題 | * 2004 年年会案内 |
| * International Prize 受賞講演について | * 会則の変更 |
| * 登録学術団体制度の廃止と学術団体の対応 | * 年会の宣伝 |
| * 科学技術者賞及び若手科学者賞、
受賞候補の推薦依頼 | * SCS の使用条件の変化 |
| | * 大学予算の節約となる交換誌整理 |

JAMS のかかえる問題

日本数理科学協会 理事長 米田 薫

突然の「近鉄バッファローズ」の身売りは世間をおどろかせましたが、今世の中では多くのこのような再編が行われていることは皆様もご存知のとおりです。国公立大学の独立法人化もこのような流れの中行われております。その影響は JAMS にも及びんで居ります。具体的には協力校の予算の見通しが立っていないこと、協力校の中に再編統合等があり、協力についての見通しが不透明なことなどがあることです。さらに学問の細分化が進み、研究者が自分に関係する狭い分野にのみ関心が集中する傾向があるためか、Scientiae Mathematicae Japonicae のような広く数理科学全般にわたる論文を扱う雑誌の発行が困難になりつつある現実があります。雑誌も細分化された特定の分野や問題に特化したものが現れ始め、今やこの方向も強化されつつあります。このような状況の中、これらが今後の JAMS の運営に及ぼす影響は無視できないものがあります。

Prof.Hindman の JAMS International Prize 受賞講演について

石原忠重

Prof.Hindman の 2003 年 JAMS International Prize 受賞講演については、丁度 2003 年から企画、調査、試行を始めている「遠隔国内、国際会議」に載せて行えないかという事で、講演会の Organizer である井関先生と、2003 年秋から検討に入っていました。

予定されていた Program は、結局下記のものでした。

Program

- (1) Wister Comfort (Wesleyan Univ.) : Honoring Neil Hindman
- (2) Neil Hindman (Howard Univ.):Algebra in the Stone-Cech Compactification and its Applications to Ramsey Theory
- (3) Andrea Blass (Michigan Univ.):Some Questions Arising Hindman's Theorem

最初の Invited Speaker, W.Comfort 氏は、受賞者 Prof.Hindman の先生であり、Hindman 氏の学位論文を指導し、学位を出した方で、(SCMJ 誌の IAB の一員でもある)Hindman 氏及びその仕事を、約 20 分紹介される予定でした。

また、Hindman 氏の講演は約 50 分のもので、最後の A.Blass 氏 (JAMS の I.A.B. で Editor) は約 20 分の時間で、Hindman 氏の Theorem 等に関するいくつかの新たな問題を提起したものであった。

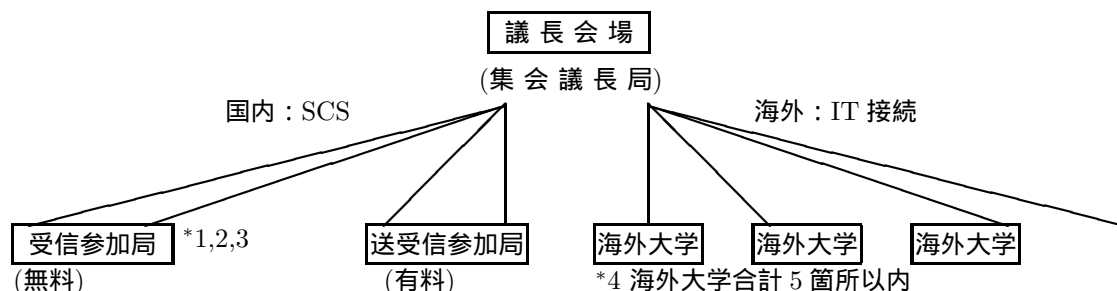
さてこの 3 人のお話の内容は大変面白いものであることが解り、折角の講演なので、国内及び世界の「出来るだけ広い範囲の専門家に聞いて頂くのが良い」と判断しました。

またその一方、2003 年秋以来検討している、国内及び国外の遠隔研究集会の試行を昨年 12 月 2 日の「不動点定理とその応用」に続いてやってみようという事になりました。

遠隔研究集会の実施にはまず、3 氏の所属大学の Internet 環境の問い合わせが必要です。問い合わせの結果は、Comfort,Hindman 両氏の大学では ISDN 回線を使っていて、それなりの Video Conference は可能ではあるが、我々とは繋ぎにくい事が解りました。(米国は早い時期から遠隔会議を始めたので、後発の日本のその後の進歩したシステムには却って match しない。勿論、米国東部でも急速に進んでいる光 fibre の普及に伴って、遠くないうちにシステムも更新され、我々と結べる事が期待される。) 遠隔研究集会の実施にはまず、3 氏の所属大学の Internet 環境の問い合わせが必要です。

それで、Online での受賞講演はあきらめて、講演内容を DVD や CD に入れて貰ったものを、あらかじめ JAMS 事務局に送っておいて貰い、SCS(国内) 及び IT(海外) に放送しようという事になりました。

我々のテストをしようとしている会議への参加を図示すれば、次図のようになります。



- *1 登録は受信局で任意に行う
- *2 受信のみに SCS を使う
- *3 送信は、e-mail、fax 等による

IT 参加の条件

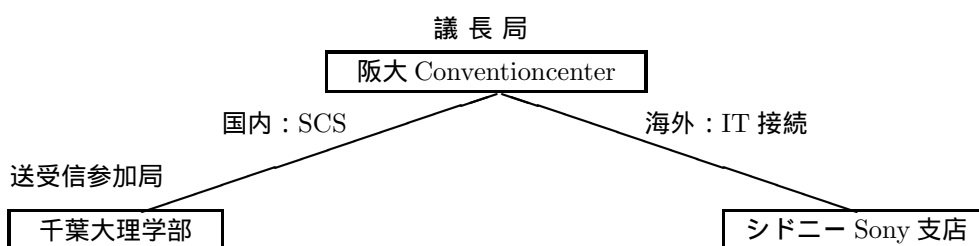
1. 回線光 fibre/ADSL
2. 参加局のシステムが ITU-T を満たす
3. 時差の cover(日 - 欧, 日 - 米, アジア - アジア等)

さて、講演は DVD 等としても、講演をめぐる Comment や Discussion は、聴く者同士を Online で結べれば可能ですので、これを試行するつもりで今回は DVD を放送する時間を 15:00 ~ 17:00 として、アテネ大学 Prof.Mallios 氏と結び、更に回線のテストも兼ねて Sony シ

ドニー店とを結び、国内 SCS では千葉大学渚先生に Monitor をお願いするという事で、実行にかかりました。

ところでこの型の集会は、今回初めてのことなので、調査に思いの外暇がかかり、事務的手続きその他でも、紆余曲折を余儀なくされ、6月29日の催行間際になって漸く、アテネ大学と会議が持てそうだと判明しました。ところが Prof.Mallios 氏から、十分な Announce をして、Audience を集める暇がないので、催行時期を延期して欲しいとの e-mail を前日の6月28日に受けた次第です。

以上のような経過があって結局、6月29日は阪大 Convention Center - 千葉大の SCS Test、シドニーとの IT 接続テストになりました(下図)。



Test の結果は、SCS による千葉大との接続は出来ましたが、残念ながら IT 接続の方は、回線の都合か？結局繋がらないまま終わり、課題が残りました。

受賞講演は DVD に入っており、一方 Prof.Mallios 氏の延期提案などがありますので、来る 11月12日(金)午後 15:00~17:00 に改めて受賞講演の実行をする予定を立て、準備にかかっています。

今回の講演会テストから得られた次回への教訓として、次の3点が挙げられます。

- (1) 次年度以降の海外からの講演者についても、時差その他で Online 参加は難しい方々には、予稿を WWW 上に letter で出して頂くのに加えて、出来れば DVD 等を寄せて貰えれば、迫力が全く違う事が解りました。
- (2) なお、DVD に併行して、講演の letter 原稿を同時に Screen に載せると、hearing について大変楽になり、講演内容の理解に大変役立つ事が解りました。
- (3) また、3人の講演者との接続を通じて、遠隔国際会議の時期は6月開催は無理で、遅くとも5月という事にすべきで、これに応じて予稿の締め切りも遅くとも4月末にするべきものと感じました。
- (4) 年会での SCS の使用は、後述のように NIME の独法化に伴い、有料化され、また議長局、参加局の大学の独法化に伴う会計取扱い rule があり、また SCS の部屋の取扱いについても、大学それぞれで、面倒になりました。

我々も、11月12日のテストで、SCS と IP 接続との接続 know-how を得るのを最後に、当分 SCS は原則として使われないことになりましょう。

登録学術団体制度の廃止

JAMS 事務局 石原忠重

「日本学術会議法の一部を改正する法律」が、3月23日衆議院、4月7日参議院を通り、4月14日付け公布され、その通知がJAMS宛に来ました。e-mailで会員にその旨を伝え、通知全文をそのまま5月17日、JAMSのH.P.に載せました。この文書は今ひとつ中身が解かりにくく、まだ見られていない会員の方も多いようですので、JAMSに関係の深い部分を主に、紹介します。詳しい話はJAMSのH.P.又は学術会議のH.P.を御覧になって下さい。

大きな改正点は次の4点です。

1. 従来7部制が、人文科学、生命科学、理工学、と3部になり、総定員210名は変わりませんが、各部の定員制はなくなる。各会員の任期は6年になり、70歳定年となること。
2. また、従来の登録学術団体による会員候補の推薦制度は廃止され、日本学術会議会員自身で、半数ずつの任期の切れた改選会員を選出する。「学術団体の選挙権はなくなる」と見ても良いかと思えます。
3. 旧法には学術会議会員の選出に関連して、学術団体として登録する「登録学術団体」の制度がありましたが、この制度がなくなり、本年4月14日を以って「登録学術団体」は無くなりました。
4. 従来、学術団体の意見を学術会議に申し出て、つなぐ役割を果たしてきた「研連委員会」は9月30日付けでなくなります。(現研連の合併、離合等により、現在の研連の代り役の連携会員(仮称)が、検討されているそうです。)

正確には、従来の登録学術団体は、全部同時に広報協力団体であったのですが、4月14日以降は、「広報協力団体」に(従来単に「広報協力団体」であった団体と共に、)全部一本化されたそうです。

この改正で、今後の登録事務がなくなるそうで、

- (1) したがって、登録に関わるデータ(研究集会の出席者数等)の報告、会員名簿の3年に1度の提出も不要(?)となるようです。

従来学術会議会員を出していた、学術団体と研連にとっては、改廃後も会員が出せることが望まれており、その為の研連の合併とか、学術団体連合の設立等がはかられ、行われています。

JAMSは、数研連、統計学研連、情報学研連、経営学研連の何れの関連研連へもお呼びがない、新米少数会員団体(?)とされており「学術会議会員を出す」等は考えていなかったのですが、学術団体連合という組織が立ち上がり始めているという重要な問題が表れて来ているようです。

統計関連研連に委員を出している、日本統計学会、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本分類学会、という6つの学会が、数年間の検討の上、本年「統計関連学会連合」を立ち上げるようになったようです。これは、日本学術会議の改

正、発足に伴う副産物であったにせよ、「統計学」の多面的発展の具体化の重要な Mile-Stone となるものと考えられます。

なお学術団体連合の設立までは行かなくても、連合研究集会は、以前にも増して多数行われるようになって来ました。日本統計学会はこの9月3日から6日迄、応用統計学会、日本計量生物学会と連合大会を開きます。又 日本神経科学会と日本神経化学会とは、9月21日から9月23日迄連合大会を開きますが、既に参加の予備登録数は、2,000名をこえています。又 御存知の通り AMS は外国数学会との joint meeting を近年大変増やしており、昨 2003 年からは、Co-sponsored meeting を開いており、本年の6月1日~7日のロシアの St.Petersburg で行った Co-sponsored meeting には、Hindman 受賞講演の A.Blass さんが、programm Committee をされ、6月1日(火)50分 講演をされています。

AMS の Mathematical Sciences の多面的発展を follow-up する JAMS の数理科学も、現在の萌芽の状態から、隣接学会との積極的な交流と、連携とにより、理学、工学、情報学、生物工学、経済学、経営学、等々の多くの科学技術の frontier の基礎を進めることが、肝要と考えられます。

科学技術者賞及び若手科学者賞、受賞候補の推薦依頼

JAMS 事務局 石原忠重

先日、文部科学省から「科学技術賞及び若手科学者賞、受賞候補の推薦」依頼が、JAMS 事務局に送られてきました。全文 47 頁の依頼で、急を要する配布ですので、JAMS では取敢えず H.P. に Content4 頁を載せ、一方、推薦依頼を SCMJ 国内 Editor、研究 group 代表者各位に添付 file を付けて御送りし、候補の推薦をお願いしました。

会員各位で自薦、他薦の候補者をお持ちの方は、Editor 又は研究 group 代表者宛、至急お申し出下さい。

推薦があった場合の選考は、取敢えず JAMS PRIZE 選考委員会をお願いしました。なお、選考委員会委員は御都合で OR 関係は坂口実先生から石井博昭先生に、また委員長は、坂口実先生から中西シヅ先生に交代されました。

なお、

- * 純粋数学関係は中西シヅ先生
- * 統計関係は長尾寿夫先生
- * 情報関係は佐藤優子先生
- * Internation Prize 関係は井関清志先生と以上 4 名は従来通りで、変更はありません。

2004 年 JAMS 年會を次のように開催します。
会員の皆様の多数のご参加をお願いします。

期日 2004 年 9 月 15 日 ~ 17 日

神大会館 (9 月 15 日、16 日)

(阪神「御影」、JR「六甲道」、阪急「六甲」より市バス 36 系
統鶴甲団地行き、神大文理農学部前バス停下車)

神大国際コミュニケーションセンター (9 月 17 日)

(阪神「御影」、JR「六甲道」、阪急「六甲」より市バス 16 系統
六甲ケーブル下行き、神大国際文化学部前バス停下車)

プログラム

9 月 15 日 (水) 於 神大会館

10:00 - 10:20 伊東由文 (徳島大・総合科学)

New notions of convergence of directed families of points and
convergence of filters

10:20 - 10:40 伊東由文 (徳島大・総合科学)

Md Sharif Uddin (Jahangirnagar University)

New quantum theory and new meaning of specific heat of a solid

10:40 - 11:00 伊東由文 (徳島大・総合科学)

Md Sharif Uddin (Jahangirnagar University)

New quantum theory and new meaning of specific heat of
an ideal gas

11:15 - 11:45 米田 剛 (大阪教育大)

微分方程式 $f'(x)=4f(2x)$ について

11:45 - 12:15 高橋泰嗣 (岡山県立大・情報工)

加藤幹雄 (九州工大・工)

Some questions in Banach space theory

13:30 - 14:00 河邊 淳 (信州大・工)

Riesz space-valued measures and their weak convergence

14:00 - 14:20 原井敬子 (お茶の水女子大・人間文化)

Measurable norms on Hilbert spaces

14:30 - 14:50 尾形尚子 (神戸学院大・薬)

Lacunary Fourier 級数について

14:50 - 15:20 川崎敏治 (日立製作所)

Derivatives and integrals in vector spaces and their relations

- 15:30 – 16:00 櫻田邦範 (北海道教育大札幌校)
Controlled convergence theorem for nuclear Hilbertian (UCs-N)
spaces valued Henstock-Kurzweil integrals
- 16:00 – 16:30 渡辺俊一
線型階位空間に値をとる関数に対する積分の一般化について

9月16日(水) 於 神大会館

I. 10:00–12:00 JAMS 拡大運営会議 (定例理事会)

多数の方のご出席をお願いします。ご欠席の方は、定数確保の為、Home page の9月定例理事会欄の委任状に、御記名の程、お願いします。

議事

学術会議よりの通達、文科省よりの通達

大学図書館の購読雑誌の、購入先切り替えによる大学予算 (交換誌整理のことです) の節約 (70% ~ 80%) について

2005年よりの JAMS 研究集会

- (1) 2005年 (集合型) 阪大基工、委員長 稲垣宣夫先生
- (2) 海外研究者との、Internet 利用による 2005年遠隔研究集会 (5月下旬予定)

SCS 接続、Internet 接続の報告と見直し

海外共同研究者の拡大を図る件。

- (1) JAMS 関係者 (Editor, Adviser, Contributor (Plaza も含む))
- (2) ESCAP, JAICA, IDE, ITU (UN), e.t.c. 等に関連した海外研究者

20期 (2005.1.1 ~ 2007.12.31 間) 用、会員名簿について (様式、作成日程等)

20期役員の選挙事務作業日程等

その他

II. 13:00–14:00 JAMS2004年総会

多数の方のご出席をお願いします。ご欠席の方は、定数確保の為、Home page の9月総会欄の委任状に、御記名の程、お願いします。

議事

- (1) 2004年度 事業の中間報告 (参照 会報#34'04.3 発行)
- (2) 2005年度 事業計画 (参照 会報#34'04.3 発行)
- (3) 会則の改正
- (4) JAMS の財政について
 - (*) 協力校の法人化による影響
 - (*) 雑誌の売上状況、
 - (*) 交換雑誌の調整、見直し、整理
 - (*) 会員の状況

(*) その他

これらの影響により、今後の JAMS の財政、経営の状況はどのように変わるか。

(5) その他

9月17日 於 国際コミュニケーションセンター

(予定) PCS-1 テスト (ソニー) 塚本達生

11:00-12:00 神戸 釜山

13:00-14:00 神戸 シドニー

15:00-17:00 神戸 アテネ シドニー

会則の変更

JAMS の日頃の活動の中心は雑誌 「Scientiae Mathematicae Japonicae」の発行です。すべての活動がこのことを中心に動いております。その活動にとって現行の「会則」が有効に機能していないことが目立ち始め、会則の改正を提案させていただくことといたしました。既に持ち回り拡大運営委員会で理事・幹事・監事の皆様には5月末までかけてご意見を伺ってまいりました。さいわい提案が受け入れられましたので、ここに会員の皆様に改めて提案させていただきます。

総会での承認を要しますので、多数の会員のご出席をお願いいたします。なお、委任状によってもご意見の表明は可能ですので、当日ご欠席の方は委任状にご意見を添えてお送りくださいますようお願いいたします。

(1) JAMS 会則の第2条(所在地)の項 「本会は、事務所を大阪府堺市南花田口町2-1-18新堺東ビル内におく」を改めて、「本会は、事務所を理事会の指定した場所におく」とする。

(2) JAMS 会則の4条(事業)の改正： 現行の条項は旧 Japonica の発行などが入っており、逆に現行の Scientiae Mathematicae Japonicae について言及していないので(1)は改正しなければならないので次のようにする。

改正案： 『1) 研究論文集 Scientiae Mathematicae Japonicae その他学術的資料の発行』

(3) 12条(総会)の改正： 現行の条項によれば、「理事長は毎年1回、年次総会を召集、開催するものとする。…」とあるが、総会の開催は年毎に困難になり、また総会の議決を経なければ、JAMS の方針等が定まらないことになっているため、総会開催が運営上の足かせになっているのが現状である。これを変えるには、会員の意思や意見を反映できる実質総会に代わる機能をもつ日常的な仕組みを構築することが必要になる。そのためには実質の審議は理事会が責任を持って行う代議制にしたほうが現実的であると考え。さらに、総会に当たるものは残臨時的なものとして残すのであっても良いのではないだろうか。

これらのことを現実化させるには、JAMS の活動を会報とインターネットを通じてより広く詳しく会員に知らせ、意見等を聴取する仕組みを充実させる必要がある。

そのようなことを踏まえて、会則12条を例えば次のように簡素化する。

会則 12 条の改正案(例): 『(会員の総意) (1) 理事長は、次の事項について会員の意見を前もって聴取し、それを尊重の上、理事会の承認を得なければならない。

i) 第 9 条第 1 項、第 2 項。

ii) 会員または理事会から審議の要求があった事項。

iii) その他、審議が必要と考えられる事項。

(4) 日本国内に在住する正会員、名誉会員の 8 分の 2 (委任状を含む) から議案を添えて会員の総意に問う要求があったときは、理事長は 3 ヶ月以内に臨時総会を開催する等により、これを会員の総意に問わなければならない。

これらの実行については別に定める。』

(5) 13 条の改正: 事業の変更(発行雑誌の変更等)に伴い 2 つあった編集委員会をひとつにする必要がある。実質名目的な変更である。

会則第 13 条の変更案: 『(編集委員) …… 本会に編集委員会を置く。その組織 ……』

(6) 16 条の改正: 会則の変更についての条項である。次のように柔軟にしたい。

会則第 16 条(会則の変更) 本会則は次々回の 3 分の 2 以上の賛成と会員の過半数の賛成がなければ変更することが出来ない。

年会の宣伝

日本数理学協会 理事長 米田 薫

JAMS 会員の皆様、本年も日本数理協会年会(JAMS ANNUAL MEETING)を 9 月 15 日(水)から 17 日(金)まで神戸大学のご協力により神大会館で開催いたします。現在参加予定の研究団体におきまして準備を進めております。この年会では、数理学と言うかなり広い範囲にわたる分野での研究発表が毎年おこなわれており、自分の研究枠を越えた研究が今どのような状況であるかを垣間見ることが出来ます。蛸壺研究に陥りがちな視野を広げ、目を覚ます良い機会になると思います。発想の転換、視野の拡大、自分にとっての新分野の展開等のよき機会としていただきたく願っております。

SCS の使用条件の変化について

渚 勝, 高橋 正, 石原 忠重

SCS を運営してきた NIME は、2004 年独法化の開始と共に、料金制度が大きく変わりました。新しい制度では、1 時間 5 万円 × 使用時間で算出される料金を、(議長局を含む) 参加局から平等に徴収する、というものです。参加局である大学の方では、大学のそれぞれのやり方で、この分担費用の支出を、独法化の財政のもとで負担する事になるわけですが、SCS を使用する教室なり、研究室なりに、どの位を負担させるのかは、参加大学により、当然まちまちなる様です。また、JAMS が会場費として、または SCS 使用費として若干の費用を分担したくても、会計取扱い上、出来ない様です。

JAMS としては、11 月 12 日 (金) に、Hindman 受賞講演の国際集会版を、もし行うならば、SCS を短時間使って、今迄やれて居なかった海外 IT net と SCS の接続についての know-how を得る事を兼ねて行うだけに留め、ここ 2,3 年は使わないで様子を見ている事になりましょう。

将来的には、SCS が安価で利用出来る様になった時は別として、Internet での VC を国内でも使う方向で行くべきでしょう。

IT を使う VC は、Running cost は殆どかかりませんが、接続 site の数が少ないのが難点で、将来改良を要する点でしょう。また、海外複数の site と結び時には、送受信が面倒になるようです。

海外との Internet Video conference については、このほど ITU が (規程等を定める) 委員会活動だけでなく、Telecommunication 普及の事業部門を活動している事がわかりました。(2004 年 9 月 7 日 ~ 14 日には、第 7 回 ITU Telecom 会議が韓国釜山で行われます。また、業者による機器の展示や、出版物も種々出る様です。)

JAMS は 2008 年に、創業 60 周年を迎えます。それまでには、IT を利用する VC の利用もはっきり目鼻がついているし、独法化後の大学の運営も落ち着いて来るでしょう。JAMS としては、その特長である内外の研究交流の層を充分厚くすること、日本では遅れている数理科学分野での研究を、AMS 並みに持つていく為の人的 base を厚くすること等に力を入れ、2008 年以降の新局面に対応する準備をすべきでしょう。

1. 交換誌整理の基本は、「JAMS にとっても、大学にとっても、新しいやり方が merit が充分ある」ものにすべきです。

具体的には、

(1) 雑誌の交換は、交換先の外国大学と、JAMS 事務局との間で行う。(JAMS 事務局が交換の事務と、交換された雑誌の発送を行う。)

(2) 大学図書館は購読をしている雑誌の書店への購入、注文をやめて、注文先をこの雑誌を交換している JAMS に換える。(大学はこの切り換えにより、雑誌の購読費用の 30% ~ 20% の節約がはかれる。)

即ち、

(3) JAMS は大学が購読を希望する雑誌を、丸善や紀ノ国屋の 70% ~ 80% の販売価格で大学図書館に売却する。

2. この処置が可能になる (SCMJ 誌と交換できる) 雑誌と、そうでない (書店が編集発行している) 雑誌とがあるので、JAMS としては、先ずこの調査に取り掛かる必要があります。

第一段階として、添付の 124 の雑誌について、購読されているか？または購読希望をされますかを調査したく、交換誌委員の方々を始め、教室員である JAMS の会員の方々のご協力をお願いします。

調査の第二段階は、現在の全交換雑誌 + 全購読切り換え希望雑誌を対象に、JAMS 事務局で市販値段を調べます。

また第三段階は、大学の購入予定希望額 JAMS に連絡して頂く事。

第四段階は、希望の雑誌について、draft 会議により購入先を決める。

交換整理は以上の四段階になります。

交換雑誌の新しい配布が、2006 年 1 月より行えるよう、以上のような調査事務を開始しますので、交換誌委員の方々、教室員の方々の、何分のご協力を重ねてお願いする次第です。

JAMS 会員募集

JAMS の出版物： JAMS は、創刊より半世紀、国際的に高い評価を得ている *Mathematica Japonica* (M.J.) と、その姉妹誌で電子 Journal と Paper 誌とを持つ *Scientiae Mathematicae* (SCM) とを発行しています。両誌の特色は

- 1) Editorial Board には国内だけでなく、海外の著名な研究者 40 名が参加している。
- 2) 世界の research group に論文が紹介され、積極的な交流が推進されている。
- 3) Editor を窓口として直接論文を投稿できて、迅速な referee、及び出版が得られる。
- 4) 世界各国の図書館へ広く配布されている。
- 5) 有名な数理科学者の original paper や、研究に役立つ survey が毎号載せられている。
- 6) M.J. は世界の有名数理科学者による、極めて興味ある expository paper を毎号 International Plaza 欄に掲載している。
- 7) 両誌は今後合併の上、"21 世紀 MJ/SCM New Series" *Scientiae Mathematicae Japonicae*(SCMJ) として、電子版は 2000 年 9,10 月頃より、印刷版は 2001 年 1 月より、年間 6 冊、1200 頁の出版を開始します。投稿論文は accept 後 (又は組版後) 待時間 0 で発行されます。

JAMS の研究集会: 研究仲間が、ゆっくり時間をかけて、発表、討論をする特色ある研究集会を毎年行われ非会員も含む多数の参加者の、活発な研究交流の場となっている。又、JAMS 学術賞、清水賞の賞講演等、最近の研究 frontier の presentation が行われている。

JAMS の会員の特典

1. SCMJ 電子版の購読 (print out も含む) 無料, 2. SCMJ print 版の少額での (下表 1) 購読, 3. page charge の discount (下表 2)

表 1

	正会員	著者会員	個人購読会員	機関購読会員	定価
Paper	¥6,000 USD 60	¥6,000 USD 60	¥12,000 USD 120	¥33,000 USD 300	¥45,000 USD 400
Online	Free	*¥6,000 *USD 60	¥12,000 USD 120	/	/
Online +Paper	¥6,000 USD 60	¥9,000 USD 90	¥20,000 USD 200	¥45,000 USD 42	¥57,000 0USD 520

表 2

	Member	Non Member
Paper : P	¥3850 (US\$35)	¥4400 (US\$40)
T _E X : T	¥2200 (US\$20)	¥2750 (US\$25)
Js : Js	¥1100 (US\$10)	¥1650 (US\$15)

2001 年の会費は次のようになります。

表 3

Categories	国内会員	海外会員		途上国会員	
		\$ 建て	円建て	\$ 建て	円建て
単年度 A 会員	¥7,000	US\$60	¥7,000	US\$30	¥3,500
4 年 A 会員	¥22,000	US\$200	¥22,000	US\$100	¥11,000
単年度 S 会員	¥3,500	US\$30	¥3,500	US\$20	¥2,400
4 年 S 会員	¥12,000	US\$100	¥12,000	US\$70	¥8,200

但し A 会員は正会員をさし、S 会員は学生会員と高齢会員 (70 才以上) をさします。

日本数理学協会

Japanese Associations of Mathematical Science
〒590-0075 堺市南花田口町 2-1-18 新堺東ビル内
Tel(0722)22-1850 / Fax(0722)22-7987
e-mail: member@jams.or.jp URL <http://www.jams.or.jp>